

尋常性乾癬の臨床・病態と治療の新展開

総 監 修 自治医科大学皮膚科

中川 秀己

監 修 東海大学医学部医学科感覚学系皮膚科学部門

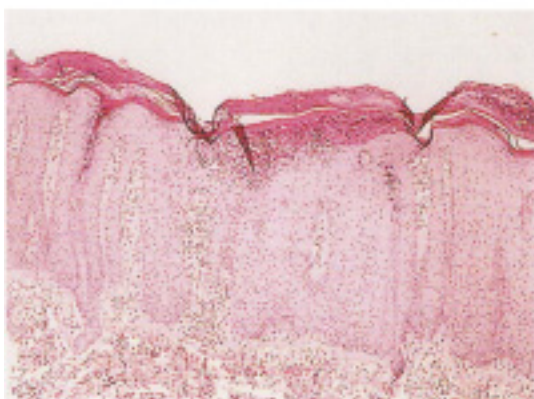
小澤 明

三重大学医学部皮膚科

水谷 仁

学術指導 東海大学医学部分子生命科学系遺伝情報部門

猪子 英俊



乾癬は炎症性角化症の代表的な疾患である。乾癬には幾つかの病型が知られているが、その約90%を占める尋常性乾癬では身体の至るところに隆起した紅斑局面上に厚い銀白色の鱗屑を付ける皮疹が出現する。患者の精神的な苦痛は大きく、患者のQOLも大きく損なわれている。本邦における患者数は10万人を超えると考えられているが、近年、その数は徐々に増加していると言われている。本疾患は慢性の経過を取る難治性皮膚疾患であり、現時点では根治療法はない。従って、ビタミンD₃およびステロイドによる外用療法、免疫抑制薬であるシクロスポリン、レチノイドなどによる内服療法、PUVAなどの光線療法による対症療法で上手に皮疹をコントロールし、患者のQOLを高めていくかが本疾患治療の原則と考えられる。

本篇では乾癬(特に尋常性乾癬)の発症病理、遺伝的背景の最新知見並びに治療の新しい展開を紹介する。

(2002年7月制作)